

新たな学力の3要素育成への転換と高校の今



東京都立三田高等学校 校長
(全国高等学校長協会 会長)

笹のぶえ

学力の3要素と高大接続改革

高大接続改革は、①高等学校教育改革で、学力の3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」の確実な育成を図り、②大学教育改革で、3要素の更なる伸長を目指し、③大学入学者選抜改革で、その取り組みのために多面的・総合的評価を実現するという、三者一体の改革である。

高等学校教育改革では、教育課程が見直され、「学習指導要領」が2018年3月に改訂された。学習・指導方法の改善と教師の指導力の向上に向け、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が推進される。多面的な評価の推進では、「高校生のための学びの基礎診断」の認定基準が策定され、指導要録参考様式の見直し等の動きも進む。

大学入学者選抜改革では、2020年以降は、受験生の「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入試に転換する。国語・数学に記述式が導入され、英語の4技能評価のために民間の資格・検定試験が活用される。個別選抜の改善や調査書の様式変更もある。

改善すべき点等の課題は山積していると考え、生徒を抱えた高等学校としても対応に苦慮している。しかし、目の前の生徒の「学力の3要素」を培う努力を停滞させるわけにはいかない。高大接続改革に取り組む高等学校の今を紹介する。

これからの社会と身につけさせたい能力

「グローバル社会」「生産年齢人口減少」「人工知能・ロ

ボット社会」の3つのキーワードが、これからの社会を端的に表現している。

5年前から本校は、学校説明会の場で中学生とその保護者に、「未来の社会の変化を意識し、そこで活躍する生徒の育成を目指す高等学校」を強調してきた。今年も本校を志望する中学生達には、「グローバル社会とは、同じ職場で働く同僚が外国人であり、隣に住んでいる町会の人外国人であるという社会です」と話す。そうした社会で生活していくには、共通言語の英語を使えることが必要となり、異なる文化を理解し共生する力が求められる。同じく「生産年齢人口減少」ということは、働く人の人口が減少して、高齢者も労働力として期待され、外国人の職場進出も歓迎される社会です」「人工知能・ロボット社会とは、速く作業することや力を必要とする仕事は、ロボットの方が人間より何倍も優れていて、速く正確に大量にという仕事はロボットがする社会です」と続ける。そうした未来社会では、今ある職業がなくなったり、今ない職業が新たに生まれたり、職業そのものの変化と働き方の変化が生じる。そして、記憶力や検索力は、人工知能にとって代われ、人間にしかできない、人間だからこそできる能力が求められる。

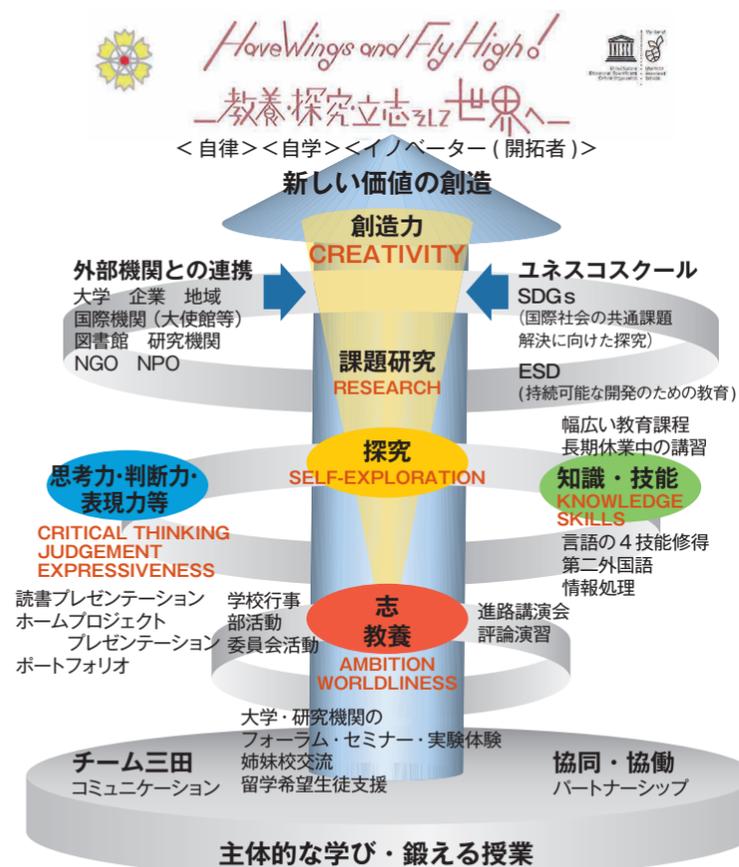
本校は、それを「創造力」と呼んでいる。

高等学校の一つの挑戦

(1) 「創造力」を育むプログラム
～知的探究イノベーター「探究と創造」～

学習指導要領では、総合的な探究の時間、古典探究、地理探究を始めとして、「探究」とつく科目が新設された。それは、「生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を

図表1 知的探究イノベーター



働かせながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実が必要」だからである。

本校では、この「探究する力」を伸長するために、東京都教育委員会指定の「知的探究イノベーター推進校」として、通称「探究と創造」の時間を開設した。生徒はこの時間で、自らテーマを定め、調査研究して、課題を解決し、成果物としてまとめ、身につけた表現力を実践する。正解のない時代を生き抜くために、既に存在する答えを見つける力ではなく、仲間と共に学ばなから、納得できる解を創りだす力を培うのが目的である。

研究テーマの設定の仕方、論理的な文章の書き方、WordやPowerPointの操作、図書館や博物館の利用等、校内・校外を学習の場とし、教員と外部講師が連携して生徒の学習指導に当たる。1年次で研究の基礎的方法を学ばせ、2年次で本格的な課題研究(論文作成)に取り組む。

1年間の先進校視察や教材開発の準備期間を経て、授業実践者と授業分析を行う委員会が連携した組織の下、教材のデータ蓄積と授業実践記録の集積による継続可能な授業実践を行っている。

(2) 「主体的な学び」

学習指導要領の改訂の基本的な考え方は、「未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育成すること」である。その資質・能力は、前述した学力の3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」である。この学力の3要素を、「何を学ぶか」にとどまらず、「何ができるようになるか」を明確化させ、「どのように学ぶか」で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を迫り、学習者に育むことを狙っている。

本校は、その動きを見越して5年前から、「主体的な学び」を明確に学校経営計画に位置づけた。教科・科目の学習はもとより、学校行事や部活動や生徒指導にも「主体的な学び」の姿勢を求め、さらに、「オプション活動」として、教師から与えられた活動ではなく、自ら学びの場を探し出すことも奨励している。

①「主体的な学び」のための授業改善

教科・科目の特性を十分に考慮しながら、「やり取りのある授業」「生徒自らが納得できる解を創る」授業を目指している。

教師は、「なぜ」「どのように」等開かれた発問を心がける。()に正解の単語を補う教材ではなく、自分で考えたことや自分で調べたことを文章で書きこむプリントやノート作成を求める。自分で調べる・グループで相談してまとめる・みんなの前で発表するという授業形態を取り入れる。定期考査は、その単元で学んだことを応用して解答する初見の問題も出題する。授業評価アンケートでは「この学習が役立ったか」「この学習で自分が進歩したか」を生徒に問うて、自己評価させる。

こうした学習活動を通して、生徒の姿勢は、指示待ちの学習・一人で学ぶ学習から、自らが主体者となった学習・協働して納得解を創る学習へ変化している。覚える学習から、知識を編集して考える学習へ進化している。受験のた

めの学習に偏りがちな高校生の学習が、知的好奇心を満たす学習、自ら必要とする専門性を育むための学習に、大きく変化しているのが実感できる。

②主体性を育み実践する場としての特別活動

「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」と「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」は、学校行事や部活動等の特別活動を通して、実体験を伴った活動の中で、効果的に育まれる。

学校行事は、各クラスから選出された生徒で組織する実行委員会が中心になり、企画・運営する。従来は、教員が、生徒の安全を大前提とした危機管理の下、指示を出し、生徒がそれに従って動く学校行事を実施してきた。しかし、生徒には、いわゆる「やらされ感」が残る。その反動が、「せめて自分が当日楽しもう」という安易な行動に現れる。そこで、生徒一人ひとりに、自らの目的意識を持たせ、自分以外の他者のために行事を行うことを意識させた。前年度までの行事の課題を洗い出し、どこを改善したいか、どのようにすればいいか、誰と協力して実施するかを生徒主体で試行錯誤させた。

日常は、「ルールでなくマナー」の生徒指導を実践している。校則で縛られて指導されるものではなく、自らの品格で自らの日常生活を律することが大切であるという考え方に基づく。学年集会や全校集会の場では、それぞれの委員長や生徒会長が生徒に向け、「この集会をこのようにしたい。だからこうした協力をしてほしい」と呼びかけることができるようになった。

③活動の機会も自ら求める「オプション活動」

自らが学びの場や挑戦の場を求めてこそ、主体的な学びといえる。それを促すために、「学校の授業と学校行事の他にプラスαの活動をしよう」と呼びかけている。それが「オプション活動」である。

ユネスコ主催のカンボジアツアーに参加した生徒は、その体験を生徒達に還元したいと申し出て、文化祭で報告会を開いた。さらに、隣接の小学校に出前授業の実施を自ら交渉し、朝礼の時間をいただいて全校児童に体験談を語り、加えて6年生の総合的な学習の時間で、アジアの貧困をテーマに学習指導をした。

首都圏の進学校で定例となった即興ディベートの競技

会がある。本校からは、英語を流暢に操る帰国生達に参加し、大敗してきた。悔しい思いをした彼らは、自らのついで、私立高校生と自主的に練習会を開き、継続的にディベートの訓練をしている。今年の11月に開催される競技会での善戦が期待できる。

学校が活動の機会を与えるのではなく、生徒自らで、活動の機会を探し、それを実現するための手だてを考える、一緒にできる仲間も探し、やり遂げる。「主体的な学び」の授業実践を始めたころから、徐々に、こうしたオプションの活動に取り組む生徒が現れ始めた。今では、どれだけ「カッコいいオプション」に取り組むかを、生徒達が競っているかのように見受けられる。ここでの経験は、学びに向かう力・人間性等の育成に確実につながっている。

(3) 英語の4技能の伸長

英語の4技能評価が話題になっている。

楽しく学ばなければ英語は身につかないという考え方に立って、5年前から、英語の授業に「多読」を取り入れてい

図表2 三田 ESPA

2018年度
MITA HIGH SCHOOL
English Summer Programs and Activities
要覧 (ESPA)

1. 『British Hills 英語研修』 (学校行事)
期間：8月10日(金)～8月11日(土) (1泊2日)
費用：25000円 程度
場所：〒962-0622 福島県岩手郡天栄村大字田代尾字芝草 1-8
内容：ネイティブ講師によるオールイングリッシュ講座および体験活動
※申し込み：5月に案内を出します。

2. 『MITA HIGH SCHOOL ENGLISH WORKSHOP ~2018 Summer~』 (学校行事)
期間：8月6日(月)～8月8日(水) (3日間)
費用：22000円 程度
場所：三田高校
内容：ネイティブ講師の指導のもとディスカッションやプレゼンテーションを行ったり、多国籍留学生との交流や異文化理解を深めたりする。
※申し込み：5月に案内を出します。

3. 『The Great Canadian Summer Program』 (学校推薦)
期間：第1期 7月22日(日)～8月5日(日) (14日間)
第2期 8月5日(日)～8月19日(日) (14日間)
費用：42万円程度 (機油サーチャージ別)
場所：カナダ フリティッシュ・コロムビア州バーノン学区
内容：ホームステイをしながらバーノン高校のインターナショナルプログラムに参加し、各国から来た高校生たちと交流を深めつつ英語を学ぶ。

る。数分で読了するディズニーの絵本でもよい。辞書を引かずに楽しみながら読む時間を確保する。英語を読むことの垣根がなくなった生徒は、英語学習そのものを楽しむことができるようになった。

本校2年生は、2012年から、海外修学旅行を継続している。現地の高校生生徒との学校交流の時間を、必ず確保する。同年代の外国の高校生と平日過ごすなかで、本校のほとんどの生徒は、それまで多少の自信を持っていた英語力がそれほどでもなかったことを実感する。「もっと使える英語を身につけなければならない」と、英語学習への意欲を刺激されて帰国する。入試のために学ぶ英語ではなく、知り合った外国の高校生とこれからも友情を育むために不可欠だから英語を学ぶというモチベーションは、学びの姿勢を変える。

三田ESPA(三田高等学校English Summer Programs and Activities)も同じ効果がある。福島県のプリティッシュヒルズでの語学研修、校内でのスピーチやディベートに特化した英語研修、カナダ・バーノン学区でのホームステイを伴う語学研修である。生徒達に生きた英語を使う環境を提供し、英語力の不足を実感させる場である。

1年から3年生まで継続して英語の授業で、スピーチやディベートを実践している。語彙や文法力も身につけ、一般常識等の土台となる知識も増えた3年生では、表現活動の質そのものが高まる。表現する技法と表現する内容が一体となって成果を上げる。

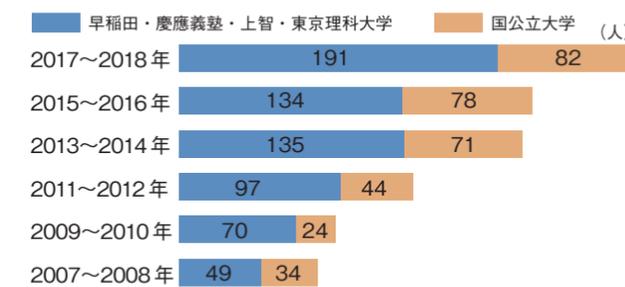
大学入試が変わらなくても、生徒が、語学の楽しさと必要性を実感して学べば、学習効果も高い。本校の生徒の英語力は、年々伸長している。それと連動して、進学実績も向上している。

(4) 学習履歴の蓄積

多様な評価を実施する方策として、調査書様式の改訂が計画されている。本校では、生徒自らにも、学習履歴の蓄積を促し、学習管理システムを導入した。

模擬試験の結果を記録するだけでなく、講演の記録メモ、行事の感想、授業評価アンケート、校外学習の記録のための写真の集積、もちろん取得資格・検定の記録を、生徒は所有するスマートフォンで学習管理システムに入力する。東京都のBYOD研究事業指定校*1として、校内Wi-Fi

図表3 三田高等学校の進学実績向上グラフ



を利用する。担任は、教員端末から生徒の入力状況を確認、コメントを書き加えたり、集計したりできる。

ただし、現在の東京都の成績処理システムでは、生徒が入力した情報を調査書の書式に直接取り込むことはできない。また、調査書を大学にそのまま送信する機能も完備していない。今後、外部と情報のやりとりが可能になるセキュリティシステムを構築し、生徒の学習記録が効果的に活用できるようになることを望む。

結びにかえて

多くの高等学校で、本校が取り組んでいるような試みを既に実施していると聞く。高等学校は、大学入試改革に対応するためだけではなく、未来の社会で生きて活躍する生徒に必要な能力を培うための教育活動を推進している。そうして、育まれた高校生が、高等教育機関で、さらにその能力を伸長する教育を受けることを期待する。

「大学入試が変われば高校の学びが変わる」という表現もあながち誤りではない。しかし、大学入試に囚われずに、生徒に必要な指導として、生徒が求めることに応えることによって、生徒達の能力を伸長している高等学校も多くある。そして、その結果は、当然のことながら、大学入学の進学実績の向上にもつながっていることは間違いない。

大学入学者選抜改革と大学教育改革が、高校生の3年間の学習の成果を適正に評価し、それを確実に伸長させ、未来に貢献できる有意な人材を育成するための改革になることを強く願う。

*1 Wi-Fi環境を普通教室に整備し、生徒の所有するICT機器を活用した学習支援等を実施することの有効性を検証し、導入時及び運用における課題の解決の方向性を検討することを目的に東京都教育委員会が7校を指定。(BYOD:Bring Your Own Device)